

広がる 補聴器助成

東京・板橋区

「補聴器を長く使い続けられるように」と。こんな願いから、補聴器助成制度とセットで導入された東京都板橋区のユニークな調整（アフターケア）制度が注目されています。（徳永慎二）

他の自治体で補聴器の調整に携わっている言語聴覚士は言います。「補聴器は購入して装着すればすぐに聞こえると思っ

ている人が多いですが、その人の聴力や生活実態にあわせた調整が必要です。その点で板橋区のシステムは有効だと思います」

同区の助成制度では「補聴器購入アフターケア証明書」の提出を要件としています。同区長寿社会推進課高齢者相談係長の鈴木波江さんは「システム導入にあたって、補聴器販売店に聞き取りしたところ、購入した方の補聴器の調整結果を記録していることがわかりました。それをヒントにアフターケア証明書をつ



補聴器購入アフターケア証明書の表紙

石川区議



吉田区議



かなさき区議



山内区議



助成制度は2021年4月スタート。板橋区生活と健康を守る会（加藤勝治会長）が19年5月に出した助成制度創設を求め

陳情がきっかけ
積み上げた議論

る陳情がきっかけです。直後の6月定例会で、日本共産党の石川すみえ区議が、補聴器助成の必要性について、区の認識をたどりました。区長の答弁は「研究する」でした。その後は、陳情を審査した区議会健康福祉委員

ユニークな調整制度導入

「長く使い続けられるように」 計4回、装用感などチェック

[アフターケア1回目]	[アフターケア2回目]
<p>下記確認</p> <p>店舗名・担当者名</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 電源の入り切り、耳への装着、ケースへの保管ができるか確認 <input type="checkbox"/> 電池が交換できるか確認 <input type="checkbox"/> 一日の補聴器使用時間の確認 <input type="checkbox"/> 装用前と装用後の違いについて確認 <ul style="list-style-type: none"> ・補聴器で聞こえるようになった音（例：インターホンや電話、家電製品等） （ ） ・家族等との会話の状況の変化（ ） <input type="checkbox"/> 補聴器の調整の必要性（有・無） <p>次回予約日（購入から概ね2週間～20日後） 令和 年 月 日</p>	<p>下記確認</p> <p>店舗名・担当者名</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 一日の補聴器使用時間の確認 <input type="checkbox"/> 自分の声の聞こえ方の確認 <input type="checkbox"/> 最近気になる音や装用時の違和感についての確認 <input type="checkbox"/> 体験の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・静かな状況での会話 ・他の音がする中で会話 ・騒音して外出し、騒音を聞いてみる ・買い物をしたり、喫茶店などに行ってみる ・部屋ごとの色々な音を聞いてみる（包丁で刻む音・シャワーの音・犬の鳴き声等） <input type="checkbox"/> 補聴器の調整の必要性（有・無） <p>次回予約日（購入から概ね3週間～30日後） 令和 年 月 日</p>

アフターケア証明書のアフターケア1回目と2回目のページ

会が、補聴器助成の議論の主舞台となりました。21年1月に全会一致で陳情が採択されるまで、計7回の継続審議が続きました。共産党の吉田豊明、かなさき文子両区議は、前回委員会で「論議の到達点を確認しな

がら、制度実現に向けて議論を積み上げていきました。7回もの継続審議が続きましたが、採択されてよかったです」と山内区議の口から、19年8月27日の健康福祉委員会。吉田区議は「今回の議論の中で（制度の）有効性はより深まった」として「本格的に前に進めていく決断をする時期ではないか」と陳情採択を主張しました。委員会は、区側は

言語聴覚士 ことばや聞こえに問題をかかえる人に、専門的なサービスを提供し、その人らしい生活をおくられるように支援する専門職。国家資格を持ち、失語症、聴覚障害、ことばの発達遅れとともに、摂食・嚥下などにも対応します。

かなさき区議は「補聴器を持つに困っているのに使われない方がたくさんおられる。なぜかと聞くと、雑音も入ってくるから」という話を紹介し、アフターケアとともに「正しい知識」の周知を求めました。

陳情が採択された21年1月の同委員会、かなさき区議は「補聴器をつけるかつかなくなるかは、アフターケアが左右する」と改めて強調しました。



西野幸枝の
今晚のおかず

材料の下ごしらえを丁寧にすることで、味がしみこみやすく、おいしい煮物ができます。

◆作り方 ①里芋は皮をむき、塩小さじ1をふり、よくもんで洗う。鶏肉はひと口大に切る。

②こんにゃくは塩もみし、洗ってたたき、ひと口大にちぎり、鍋でからいりして水分を飛ばす。

③鍋に油大さじ1/2を熱し、①を炒

◆材料（2人分）
里芋6個／鶏もも肉100g／こんにゃく1/2枚／だし汁250ml／絹さや6枚＝計320円

■里芋と鶏肉の煮物

め、②を加えてさらに炒め、だしを加えて煮立ったらアクを取る。

④ ③に砂糖大さじ2、みりん大さじ1を加えて5～6分煮、しょうゆ大さじ1.5を入れ、弱火で落としふたをし、ゆっくり煮ふくめる。

⑤絹さやは筋を取ってゆで、④に散らし、器に盛る。

◆メモ 新ジャガイモで作ってもおいしいです。

（1人分276kcal、塩分2.5g）

非課税世帯限定
対象の拡大必要

助成制度は、65歳以上の非課税世帯が対象で、助成額の上限は2万円。3月31日現在で同制度の受給者は92人。

板橋区生活と健康を守る会の加藤会長は「最初のステップです。対象を非課税世帯とすると、受給できる人は限られます。より多くの人が助成をうけられるようにしていきたい」と話しています。

山内区議は「他自治体にはない調整システムができたのは良かった。区のケアマネジャーアンケートで8割の方が補聴器が必要と答えておられることからみても、非課税世帯に限定しているのは、改善が必要です。2万円の上限も、引き上げるべきです」と話しています。

3月2日、ひなまつ

昨年は心臓の手術でいた。